

コンサートとオペラを学際研究する

—ヨーロッパ地域研究における共著論文執筆の方法—

日時 2016年11月19日（土）13:30-17:30

場所 早稲田大学早稲田キャンパス 26号館1102会議室

プログラム

【第1部】学際研究に向けたアプローチ：異分野の慣習を共有する

司会：堀内 彩虹（東京大学大学院）

- 趣旨説明・問題提起 岡本 佳子（東京大学）
「各学界における慣習の差異と共有方法」
- 講演 河瀬 彰宏（同志社大学）
「文化現象の解明に向けた学際的共同研究への枠組み構築について」
コメンテーター：標葉 靖子（東京大学）

【第2部】音楽・歌劇の興行情報を対象とする共同研究の可能性

司会：神竹 喜重子（北海道大学）

- 研究報告
大河内 文恵（東京藝術大学）
「ドレスデンの歌劇場におけるオペラ上演の実態調査とそれに付随する問題点」
小石 かつら（京都大学）
「オーケストラ演奏会の実態調査とその活用の試み」
19世紀前半のライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団を例に」
- グループディスカッションと総合討論
コメンテーター：辻 昌宏（明治大学）
企画アドバイザー：福田 宏（愛知教育大学）

開催報告

本企画は以下の2点を論点として開催された。

- 1) 音楽、演劇研究者に馴染みのない、自然科学系分野での研究上の慣習を知ること。（第1部）
- 2) 歌劇の上演演目など興行情報を対象とする学際研究の可能性を議論すること。（第2部）

第1部では自然科学分野からの研究者から研究手法や慣習、異分野融合の現状の話がわかった。河瀬氏の講演では、学際的共同研究、計量的分析、デジタルヒューマニティーズの3点のキーワードを軸にデータを用いて文化現象を分析するための指針を提示いただいた。さらに標葉氏からは研究分野間の距離を示すサイエンスマップや生命科学と情報学の融合といった具体例を挙げて、異分野融合の説明をいただいた。

第2部では研究報告の後、参加者がグループに分かれて議論した。大河内氏からは18世紀のドレスデン宮廷歌劇場の資料整理について、小石氏からは19世紀のライブツィヒの演奏会に関するデータ活用について報告があった。グループディスカッションでは学際研究のアイデアや予想される問題点についてグループごとに話し合い、最後に全体へ発表して討論を行なった。

本企画では共同研究者を見つけるための方法などの素朴な疑問から、分析対象の「分類」の妥当性担保の方法といった、程度の差こそあれ文理に共通する根本的な問いまで、様々な議論が行われた。時おり異分野の研究手法の限界や疑義、不安が率直に口にされていたにもかかわらず、全体として和やかに進行していたのが印象的であり、企画冒頭での議論の目的共有、そしてグループディスカッションを通じた、一方通行ではない双方向の議論の有効性が感じられた。

ディスカッションテーマの絞り込みなどの進行上の改善点や今後の具体的な研究発展という課題は残るが、地域研究方法論を探る当初の目的は十分に達成されたと考えている。なお本ワークショップの講演と報告、コメントとディスカッションの記録は年度末に報告書の小冊子として発行した。（参加者：21名）